



元氣とタイムリーな情報を提供する

# 五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2025年04月21日 第1214号「週刊五十嵐レポート」

## 中国の経済戦略

4月15日付朝日新聞の社説は「トランプ関税 対中国圧力の無意味さ」。

米国のトランプ政権が「相互関税」で世界経済を混乱させる中、狙いを中国に絞るといふ方針が浮かび上がった。長い目で見れば中国の習近平政権を利するのではないかと。

中国は欧州や東南アジアとの接触に積極的。習近平国家主席はベトナム、カンボジア、マレーシアを歴訪。米国の信頼が失墜した国際情勢を中国は外交の好機として最大限に生かそうと考えている。

中国の輸出総額に占める米国向けの比率は2017年に19%だったのが、2024年は15%を切った。今後も輸出の多角化を進め、経済面での米国依存を低下させる。さらに注目すべきは、中国の科学技術。米国がこれまで半導体に関わる対中輸出を規制してきたが、ファーウェイは先端半導体をつくり、DeepSeekは高性能AIモデルで世界を驚かせた。

4月12日付日経新聞、コラム「Asiaを読む」は「中国、製造強国への道半ば」。中国の習近平国家主席は2015年5月、戦略的経済計画「中国製造2025」を発表。米国と肩を並べ、いくつかのハイテク産業を支配する狙いだった。10年後の結果はどうか。1800以上の品目を分析すると、製造2025が目標を概ね達成したことがわかる。9つのハイテク産業で中国は世界最大の輸出国になった。

中国の戦略を小さな会社の戦略の視点で見ると、特定の顧客1社に売上全体に占める割合を低下させ、生殺与奪権を消滅させる。営業力の弱い中小企業は特定の顧客1社に売上全体の3割以上を占めるところが少なくない。そうすると、特定の顧客の無理難題を断れない。1社当たりの売上は全体の1割以下が望ましい。

商品または有料のサービスを強化し、最終的には一番になり、ダントツ1位を取る。または他社とは差別化し、明確に違いを発揮する。価格競争には巻き込まれないようにする。

人型ロボットのマラソン大会も開かれた。競争は続く。

ちょっと  
気になる出来事

4月6日付日経新聞、「AI、東大理3合格」という記事。

米中の新型生成AI（人工知能）が国内最難関とされる東京大学理科3類の入試に合格できる「学力」を身につけたことが調査で分かった。

米オープンAIの「O1」と中国のAIスタートアップDeepSeek（ディーブシーク）の「R1」の2つの基盤モデルに2025年度の東大入試問題を解かせた。大学入学共通テストと2次試験を合わせた理系の得点（550点満点）はO1が374点、R1が369点となり、いずれも東大が発表した理科3類の合格最低点（368.7点）を上回った。

語学力が問われる英語で高得点を稼ぐ一方、数学で論証ミスを重ねるといった課題も明らかになった。

AIが東大理3を合格するニュースはもここまで来たかという思い。今後もしばらく進化していくことだろう。

何か調べものをするときに、Google検索ではなく、チャットGPTで調べることが普通になってきた。文書作成、提案作成のパートナーになりうる。どんどん業務にAIが絡んでいくことは間違いない。



一口メモ  
知識

## 朋遠方より来る

子曰く、学びて時に之を習う。亦（また）説（よろこ）ばしからずや。朋遠方より来る有り、亦樂しからずや。

先師が言われた。

聖賢（聖人と賢人）の道を学んで、時に応じてこれを実践し、その真意を自ら会得することができるのは、なんと喜ばしいことではないか。

共に道を学ぼうとして、思いがけなく遠方から同志がやってくるのは、なんと楽しいことではないか。

「論語一日一言」(致知出版/伊與田寛)より

- 「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時～12時
- 「戦略社長塾東京」銀座校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5  
TEL.03-3659-7703 Fax03-3659-7077 info@igarashireport.com

